

今月のテーマ

2011年9月

携帯電話がコミュニケーションに与えた影響について

最近は、一家に一台どころか、一人一台「携帯電話」を持つようなケースが増え、仕事上で、また、友人や家族とのコミュニケーションにおいても「携帯電話」が頻繁に使われるようになり、我々の個人生活・社会生活に大きく影響を与えるようになってきているのが現状です。

どこにいても person to person で連絡が取れる「携帯電話」というコミュニケーション・ツールが普及することにより、我々のコミュニケーションのあり方、あるいは、人と人との関係についても変わってきているのではないかと思います。

近年、このような現状を見るに至り、今月はこの話題を取り上げ、会員間で討議しました。

● 携帯電話機能のプラス・マイナスについて

「携帯電話」といっても、少し以前のデスクトップのパソコンと同じような機能を発揮してくれるようになったのですから、一世代前のコミュニケーション・

ツールとは様変わりしました。今や「携帯電話」が我らの社会の様相を変えている、といっても過言ではない時代です。

「携帯電話」が我々の生活に大きな影響を与えていることは間違いなく、誰もが認めざるを得ないと思います。「携帯電話」のお陰で、目の前に見える風景まで変わってきたことに気付いている人は多いのではないのでしょうか？

当会の会員間討議でも、真っ先にこの点についての指摘が挙がりました。見える風景が変わった端的な例として挙げたのは、電車の中での乗客の過ごし方についての発言でした：「電車に乗って、周囲を見渡してみてください。気持ち悪いくらい、みんな携帯を見ているから。覗き込むと、大抵はメールかゲームです。」とのこと。覗き込まなくとも、凡そ間違いないでしょう。

大人であれば、メールかゲームでなければ、その日の速報ニュースでも読んでいるか、あるいは、家族へ帰宅時間を連絡しているかもしれませんが、「携帯電話」を片手に“親指運動”をしていることに変わりありません。両手のときは、間違いなくゲームでしょう。「そうそう」と、頷いている方も多いのではないですか？ しかし、一昔前には、車中でこのような風景はありませんでした。

一方で、「携帯電話」は上手に使えば、大変パワフルなツールになります。例えば、発言の中から2・3、例を拾ってみますと：

「今日、忙しい中を所用で外出して街中を歩き、歩きながら携帯電話で仕事をしました。その電話のやり取りで仕事が一件片付いてくれました。歩いている途中の会話ですから、デスクと違って余計な時間も要さずに片付いたことになり、時間を節約できました。」とのこと。

あるいは、「情報のやり取りが劇的に早くなったことは確かで、何かあつ

たときに担当者にすぐ確認できるというのは、大変ありがたいです。トラブルシューティングの際に、携帯ですぐ連絡を取ることが出来て、何度も助かった経験があります。」という意見。

これらと似た経験をしている人は多いと思います。

その一方で、「携帯電話が普及したために、世界中どこにいても捕まってしまう、個人的にはもう勘弁して欲しいという正直な気持ちはあります。このまま携帯電話がなくなったら、どんなに良いか・・・。」といった「携帯電話」のマイナス面を突いた正直な感想も寄せられました。

そんなやり取りの中で、「やはり私はface to faceのコミュニケーションに安心感を抱いています。携帯メールでやり取りするよりも、電話で声を聞けた方が安心ですし、電話で話すよりも、実際に会って話をした方が安心です。」という発言。電話で会話をする場合も、一度でも実際に会って話をしたことがあると、全然違うと感ずるのは、この発言者だけでなく、誰も同じではないでしょうか？ このface to faceのコミュニケーションは、

いつの時代にもコミュニケーションの基本形として残り続けることは間違いないでしょう。

● 情報ツールとして多機能な携帯電話

最近では、「携帯電話」は一段と機能を広げ、“スマートフォン”に至っては、情報ツールとしての特徴や影響、特に、電子メール等の情報発信機能の影響が極めて高く、これが話題に上りました。

色々な企業を観察する機会のある会員の実体験談として、「携帯電話からの電子メール、スマートフォンからの発信が会社業務でも定着しつつあり、会社の文書においても文脈や使用用語を含めて明らかに変化しており、かつて入社時に習った、ビジネス文書の起承転結のスタイルはメールでは馴染まない。」との意見が挙がりました。

● 携帯電話が人の脳と社会へ及ぼした影響

つづいて、「人間の能力というのは面白いもので、道具が便利になると、道具を使う人間の脳の側は、それまで使っていた箇所を使わなくなるのですから、進化論の理屈で行けば、当然の結果として退化して行く能力もあるはずです。」ということから、我々の能力、特に、思考様式へ及ぼした影響が議論されました。

「私は、携帯電話の普及によって“深く考える”ことをしなくなった人間が増えたと思います。ある意味で退化ですね。」あるいは、「パソコン、携帯電話と変化するにつれ、どんどん細切れの思考を要求されているような気がします。……携帯電話が普及して以来、コミュニケーションもじっくり考えて書くより、即時性、即応性が重視されているように思います。」など、深い洞察力を窺わせる発言がありました。

小さいお子さんを持つ会員からは、子供の「携帯電話」の使用の様子から、「メールが来たら、いち早く気づいて返信しなければならないという、見えないルールに縛られているように見えます。」という観察から、ひいては、「目の前のことに的確な優先順位がつけられない大人になるのではないかと不安です。」といった、将来の大人に対する影響が心配されるような将来を見越した観察もありました。

また、社会へ及ぼす影響に関して、「携帯電話の普及で、日本人の生き方は『戸』から『個』へと確実に変化しました。結果として、携帯電話を持つことでかえって孤独になっていく構図が見えたような気がします。」という、「携帯電話」が日本の社会制度に与えた影響について鋭く社会観察を伴った指摘もあり、改めて考えさせられました。

その反面、別のお子さんを持つ会員から、「私は子供よりも早く出勤しますが、可能な限りたくさんのメールを移動中に送ります。子供も暇を持て余しているのか、すぐに返信してくれます。普段話しにくいことも、メールだと言

いやすいようです。口では絶対に言わない“ありがとう”も、メールでは普通に送られてきます。」と言った10代のお子さんと多忙な親を結ぶ心温まる使い方も紹介されました。

● 携帯電話の利用でよりよい社会へ

「携帯電話」で思い浮かぶ迷惑場面の筆頭に上がりそうな電車の中での彼女・彼らの車中での長話に関して、「携帯電話専用車両」を作ってはどうかと言う妙案が提示され、賛同の意見が集まりました。

発言者の追加コメントでは、「携帯電話専用車は、他人に迷惑をかけないための消極的な隔離策としての提案ではなく、緊急用務を抱えている人、相手と話せる時間帯が限られている人、病人を抱えている人などは、「携帯電話専用車」に乗って目的を果たし、生活の効率を上げて、安心を得られればよい」という積極的な対応策として挙げたとのことでした。

この発言は、本テーマでの会員間討議から得た収穫とも言えますが、これは日本政府や東西のJRに提言したいところです。

この提言のとおり、実現を見ることになれば、「時には気分よく乗ってみたいものだ」という別の会員から寄せられた願望も解決をみることになるでしょう。

以 上

テーマ担当： 西原 美津子／土平 亘